

大阪大会 2021 特別プログラム

みんな地球人

オンライン開催と子育て世代

★コロナ禍中で初のオンライン開催となった今大会。特に感じたことは、子どもをもつ親がとて参加しやすかったことです。子どもを連れて会場まで出かけていくこと、講演中に子どもが泣き出したりして講演の邪魔にならないかなどの心配——保護者が講演会に参加するのは、さまざまなハードルがあります。その点、オンラインのイベントは自宅からの参加が可能となり、音声のみで参加でき



企画スタッフ、星野ルネさんを囲んで

れば会場にも来てしまう音の問題もなく、途中で席を外すことも気を遣わずにできます。今後、講演会などを企画する時はオンライン参加も可能にすれば、子育て世代の人たちも参加しやすくなり、関わりを持つ機会も増えるのではないかと思います。

★準備会議・本番ともにZoom(オンライン会議ツール)で行うという慣れない状況の中、最後に「オンラインでも伝えられた!」と実感できたことをとても嬉しく思います。開始前はコミュニケーションが取りづらいと思いましたが、話している人だけでなく、聞いている人の表情も見ることができたり、画面の中からそれぞれ家庭の様子が垣間見えたりし、オンラインという環境だからこそ、新たに分かち合えるものが生まれると感じました。

特別講師の星野ルネさんはカメルーン出身・姫路市育ち。漫画家・タレントとして活躍されている。自身が経験した「自分と人の見え方の“違い”」について、漫画を使って子どもたちに分かりやすく説明された。終始笑顔の絶えない3時間だった。企画スタッフ4人の感想を記す。



星野ルネさん著の書籍

子どもたちのために

★星野ルネさんの講演では、ルネさんだからこそ感じられたさまざまな視点からのお話を聞くことができ、とても興味深かったです。国や文化が違ったとしても互いの存在を尊重し合うこと。また、持つて生まれたものを素晴らしいと気づくこと。コロナ禍で家にいることが増えた今、社会の中の差別などが他人事のようになっていたので、多くを学びました(ありがたうございました!)。

★人種や民族で人は分けられるが、分ける基準を変えらる「みんな地球人」。世の中にはいろいろな考え方があって、多様性を理解して受け入れることで、生きづらい世の中であっても優しく生きていけるのではないかな。子どもたちが小さな世界ではなく、もっと広い世界で羽ばたけるよう翼をさすけてほしい。学校以外の居場所があることは、子どもたちにとって救いとなるので、教会にその一端を担ってほしい——そう提案されていると感じました。

高校生から、高校生に向けて



日本カトリック正義と平和全国集会初の試みとして、今回「ユースフォーラム」を開催。未来の世界を担う高校生たちがさまざまな社会問題について自分たちで調べて発表し、意見交換する企画。フォーラムの振り返りを紹介する。

小林聖心女学院高等学校

私は世界の深刻な「教育問題」に焦点を当てたプレゼンを行いました。これまで貧困層の子どもたちのことを知り、考える機会が多くあり、子どもたちが直面する教育問題の解決に携わりたいという思いがあったからです。教育問題だけではないさまざまな社会問題についての発表とディスカッションにより、社会に対する自分の責任を思い知らされたと同時に、自分が社会に与えられる影響力の大きさに気づかされました。今回の発表体験を踏まえ、現在、他校の生徒が共有して下さった取り組みを校内の団体の一つの企画として始めています。今後もさまざまなアングルから持続可能な社会づくりに貢献していきたいです。(生徒)

六甲学院

本校は高校1年生のカトリック研究会のメンバーが発表の準備にあたった。彼らにとって印象的だった出来事が「カプール陥落」。なぜこのようなことが起きるのか——その漠然とした疑問は、問題の本質を知りたいという欲求に変化していき、発表テーマは「宗教文化間の違い」に決定した。いざ発表の準備をしていくと、アフガニスタンだけの問題ではなく、ウイグル自治区などイスラーム全般に関する知識不足に気づかされた。そこと日本との関連は何かないか。そうした中で、発表の日を迎えた。当日は「異文化の人を自分の内に迎え入れられるか」という問いを深めていくことができた。今後ますます多様化していく現代において、生徒たちが善きサマリア人のように異文化の人を受け入れられることができることを願う。(教員)

函館ラ・サール高等学校

オンラインでの発表会を今までも行ってきたが、他校の生徒と一緒に、自分たちの活動について振り返り、考えることは初めての体験であった。私たちが一方的に発表を行い、大人の方々から講評をいただくのではな

く、同年代の方々と議論を交わすことができ、とても参考になった。私たちがこれからどのように学んでいくべきか、現在の教育の問題点は何かなど、新しい視点から考察することもでき、有意義な時間を過ごすことができた。(生徒)

城星学園中学校・高等学校

私たち人権委員会は「コロナ禍で見えてきたもの」というテーマで、コロナ禍によって可視化された問題(教育格差、情報格差、恣意の差別意識など)について調査し発表しました。これまで人権委員会の活動は校内に留まっていたが、今回の全国集会で(オンライン上ではありましたが)、他校の生徒の発表を聴いたり、意見交換をすることを通じて、他校と交流を持てたことは貴重な体験となりました。(生徒)

神戸海星女子学院中学校・高等学校

私たちは「世界希少・難病性疾患(RD)について」発表しました。ブレイクアウトルームでは、RDについて「広く知ってもらふことの大切さ」について話し合いました。これからは高校生のActionによって、たくさんの方々を知ってもらい、当事者の方が生きやすくなる社会が少しでも広がるきっかけになるよう、活動を続けていきたいと思いました。(生徒)

アサンプション国際高等学校

人生初の司会役は非常に緊張しましたが、皆様のご協力のおかげで無事に終えることができました。コロナ禍でなかなか交流ができない中、社会問題に興味を持ち、それぞれの方法で解決に向けて努力を続ける高校生と出会い刺激を受けたことは、きっと皆さんの糧になると思います。SDGs(持続可能な開発目標)の達成のために、将来の日本を担う私たちがアクションを起こし続けていきましょう!(生徒)

閉会ミサより



閉会ミサで挨拶する勝谷太治司教(札幌教区・日本カトリック正義と平和協議会会長)